



ASAHI University News Letter

vol.112

November 2017

発行日／隔月1日

編集・発行／朝日大学 入試広報室

「2017朝日大学公開講座」を開催



阿部佳先生が日本の観光業の課題を語る

朝日大学では、「地域と共に歩む大学として日頃の研究成果を社会に還元すること」を目的に、1987年から日常生活に身近な話題を取り上げた公開講座を開催しています。

第31回となる今年度は、「観光立国としての日本の行方」と「夏目漱石『こころ』を開いて」をテーマに、それぞれの分野における第一人者を講師にお招きし、地域社会の幅広い層の人々へ学習の機会を提供しました。

教育研究の成果を地域社会へ

朝日大学地域社会連携センターでは、「地域と共に歩む大学として日頃の研究成果を社会に還元する」ことを目的に、1987年度から公開講座を開講し、高齢者向けの講座を含めて地域社会の幅広い層の人々へ学習の機会を提供しています。

第31回となる今年度は、「観光立国としての日本の行方」と「夏目漱石『こころ』を開いて」をテーマに掲げ、瑞穂市総合センターサンシャインホールに、それぞれの分野における第一人者らを講師にお招きし公開講座を開催しました。

第1週 観光立国としての日本の行方

第1週の公開講座は、2020年東京オリンピックを控え、国内に広く観光客を呼び込み地域経済を潤し、活気に満ちた地域社会を構築することをテーマとし開催されました。

講演

「観光立国としての日本の行方」

(株)小西美術工藝社代表取締役社長
奈良県立大学客員教授

デービッド・アトキンソン 氏

アトキンソン先生は、我が国のインバウンド観光の強化と観光立国実現に向けた「みちすじ」について政策面から解説されました。



「観光立国としての日本の行方」を語るアトキンソン先生

「日本の“観光業”の課題と今しなければならないこと」

明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授
グランドハイアット東京コンシェルジュ

阿部 佳氏

阿部先生は、ホテルのコンシェルジュという受け入れの現場で感じ、考えてこられたことや心がけていることについて、また今後の外国人観光客の受け入れのあり方について語られました。



「日本の“観光業”的課題と今しなければならないこと」を語る阿部先生

「インバウンドの新しい潮流と地方の可能性」

(株)やまとごころ代表取締役
村山 慶輔 氏

村山先生は、外国人観光客の最新動向や近年の変化について、また「地方」におけるインバウンドビジネスとその可能性について国内各地の事例をまじえながら具体的に解説されました。



「インバウンドの新しい潮流と地方の可能性」を語る村山先生

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、経済波及効果の大きい観光分野の国内での成長について、モデレーターの岩崎大介経営学部長から



「観光分野の日本国内での成長」をテーマに

話題提供され、パネラーのアトキンソン先生、阿部先生、村山先生がそれぞれの立場や切り口で「観光立国としての日本の可能性」を語っていただきました。

第2週 夏目漱石『こころ』を開いて

第2週の公開講座は、文豪・夏目漱石が昨年に没後100年を、そして本年、生誕150年を迎えたというメモリアルイヤーであることを受け、後期三部作のひとつであり、高等学校の国語教育において長年にわたって取り上げられてきた『こころ』に焦点をあて開催されました。

講演

「近代文学を作った漱石の『こころ』」

早稲田大学教育学部教授
石原 千秋 氏

石原先生は、漱石の作品中に描かれている主人公像、漱石の作家人格と当時の歴史的な背景、また近代文学における「個人主義」の尊重について解説されました。



「近代文学を作った漱石の『こころ』」を語る石原先生

「伝える力」

熊本県立劇場館長兼理事長
姜 尚中 氏

姜先生は、留学先で心を病んだがゆえにさらに研ぎ澄まされた漱石の感性やその魅力、そして作品に込められた漱石からのメッセージについて熱く語られました。



「伝える力」を語る姜先生

大学生が日中友好を深める

大友克之学長が「2017岐阜県日中友好青年訪中団」の団長として経営学部学生らとともに中国杭州市を訪問しました。

今回の訪中団は、日中國交正常化45周年および岐阜市と杭州市との間で碑文交換55周年記念事業として結成されたもの。訪中団には岐阜大学や岐阜市立女子短期大学の学生も加わり、杭州市の碑文前で浙江大学の学生らと「日中不再戦」を誓いました。



杭州市の碑文前で「日中不再戦」を誓う

訪中団の学生たちは、本学客員教授で北京外国语大学の汪玉林教授から訪問先の各所で講話を聴いたり、世界的に有名な電子商取引大手の阿里巴巴集団(アリババグループ)の本社で最先端技術を見学したりと、歴史的・文化的な探求を深めました。

帰国した大友学長と学生らは、中華人民共和国駐名古屋総領事館を表敬訪問し、鄧偉総領事へ訪中支援に対する謝意を伝えるとともに、学生が各自、初めて訪れた中国の印象を述べました。

セイノーホールディングス関連企業でインターンシップ

西濃運輸(株)の研修センター(不破郡垂井町)で、経営学部学生による「インターンシップ成果報告会」が行われました。12名の学生たちは今夏、セイノーホールディングス(株)関連企業の西濃運輸(株)、沖縄西濃運輸(株)、岐阜日野自動車(株)、(株)セイノーサービス、(株)セイノーサービス、ココネット(株)の6社でインターンシップ(産業実習:就業体験)を体験。各企業で就労体験を通じて習得した知識や、実社会から学んだ成果を報告会で発表しました。

就職活動前に経営の実践に触れる

関係者約50名が出席した報告会で学生らは堂々と成果を発表。「人と人とのつながりに事業の基礎があること、職場環境の改善対策の大切さを学んだ」など貴重なインターンシップ体験談が語られました。



学生がインターンシップの成果を報告

朝日大学では、物流業界の最大手であるセイノーホールディングス(株)と地域社会の発展と人材育成に寄与することをめざし、地域産業と大学教育の分野において連携協力していくための「产学研連携協定」を2014年2月に締結しています。

「ベトナムの夕べ」を開催

穂積キャンパス6号館学生食堂で、「朝日大学ベトナムの夕べベトナム社会主義共和国建国記念日を祝う会」が開催され、ベトナム人留学生、学生・教職員約130名が参加し建国記念日を祝いました。

また学外より、ベトナムで石灰事業・建設事業など長年にわたる事業実績を有する矢橋ホールディングス(株)代表取締役社長の矢橋龍宣様、本学ベトナム海外研修のサポートをいただいた濃飛倉庫運輸(株)執行役員・AE0管理室長の田村謙一様、三重県桑名市の食品会社サンジルシ醸造(株)経理総務部部長の伊藤志伸様をお招きました。



矢橋ホールディングスの矢橋社長による祝辞

相互理解を深める

ベトナム人留学生らによる歌の披露、瑞穂市マスコットキャラクターのかきりんが登場し参加者全員によるダンスが繰り広げられ、ベトナム人留学生と日本人学生との相互理解が一層深まりました。

朝日大学は建学の精神に基づき、今後も若い世代が互いに友好関係を構築できるような国際交流の積極的に推進して参ります。

メキシコからの歯学部学生を受け入れ



本学と姉妹校協定を結んでいるメキシコ州立自治大学の教員と学生7名が、本学歯学部での短期海外研修のため来日しました。一行は、穂積キャンパスで藤原周歯学部国際交流委員長から「岐阜県の歴史と日本文化」、飯沼光生教授(小児歯科学分野)から「小児の咬合誘導」、近藤信夫教授(口腔生化学分野)から「口腔癌の免疫分子診断についての研究」などの講義を受講しました。

また「医療体験」として、附属病院シミュレーション実習室でヒト型患者ロボット「シムロイド」の操作を体験したり、京都のモリタ製作所(株)を訪問し、最新の歯科診察器材の作製過程の説明を受けたりと、充実した研修に取り組みました。

一行はその後、古都京都や東京などを訪問し日本文化を熱心に学び帰国の途につきました。

タンザニアの医療を学ぶ

穂積キャンパス6号館講義室で、医療系学生（歯学部、看護学科、歯科衛生士専門学校、大学院歯学研究科）を対象とした特別講義が開催されました。

講師を務めた独立行政法人国際協力機構タンザニア事務所所長の長瀬利雄氏から、「JICAの国際協力とタンザニア医療の現状」と題し、JICAの国際協力の現状、そしてタンザニアにおける保健医療の現状と課題について紹介され、「設備やモノを提供するのではなく、現地の人々と共に考え、技術や教育プログラムを導入する必要がある」と解説されました。



タンザニア医療の現状を語る長瀬所長

将来医療に携わる学生からは「アフリカの医療の現状を知る有意義な講義を受講することができた。自分自身の医療人としてのこれからを考えるよい機会となった」との感想が寄せられました。

「講演と懇親の会」を開催

朝日大学主催「講演と懇親の会」が、名古屋マリオットアソシアホテル（名古屋市）において盛大に開催されました。

同会は、本学学生の就職対策の一環として毎年開催される行事で、各企業の人事採用担当者を招き、日頃の本学に対する就職支援への感謝と、本学教職員とのより一層の人事交流を深めていくことを目的として開催されています。本年は愛知県、岐阜県などの企業を中心に、約300名の人事担当者が参加されました。

講演を行った経営学部矢守恭子教授は、「ユーザと創りあげる協創品質」と題し、昨今世界的に大きな流れとなっている「IoT・人工知能がもたらす新たなビジネスモデル」について解説し、新たなビジネスモデルの方向性を示しました。参加者たちは熱心に耳を傾け、メモを取っていました。



「ユーザと創りあげる協創品質」を語る矢守教授

活発な情報交換

講演会終了後には、会場を移して懇親会が開催され、各企業の人事担当者と本学教職員総数400名とが企業の採用状況、卒業生の近況や経済環境などについて活発に情報交換を行いました。

アクティブラーニング研究会発足

穂積キャンパス6号館講義室において、教職課程センターの豊田ひさき教授を座長とした「高大連携・接続によるアクティブラーニング研究会」が開催されました。第1回の研究会では、教職課程センターの足立淳准教授が講師を務め、「アクティブラーニングの事例授業の鑑賞と検討」のテーマで話題提供を行い、その後グループ討議が行われました。

高大連携・接続

同研究会は、今般の教育職員免許法等の改正に伴う学習指導要領の改訂に対応し、高大接続の取り組みとして、岐阜県内高等学校教員と教員養成課程を有する教職課程センターとの連携により発足したものです。

今後同研究会では、教育場面に応じたアクティブラーニングの研究と実践、授業改善により展開されるアクティブラーニングの情報・知識の共有などについて研究が進められることとなります。



研究会発足にあたり大友克之学長が挨拶

「フロンティアセミナー」を開催

穂積キャンパス1号館講義室において、瑞穂市とその周辺地域にある大垣共立銀行の5支店が主催する「第33回フロンティアセミナー」が本学協賛のもと開催され、岐阜市、瑞穂市、本巣市などの市民ら約70名が保健医学部健康スポーツ科学科教授の竹島伸生学科長の講演を聴講しました。

本セミナーは、大垣共立銀行が進める地域活性化事業の一環として実施している催事で、朝日大学は「大学の知的財産を地域社会の皆様に還元できれば」と、第1回目の開催から協賛しています。



竹島学科長が講師を務める

活力ある人生を送るには

竹島教授が「活力ある人生を目指して—ウエルビクスの勧め—」と題し、「有酸素運動や柔軟性運動を組み合わせて、体力の低下を緩やかにことができる」と語りかけました。

このフロンティアセミナーは、今後も半年に一度本学を会場として開催される予定です。

歯学部 海外4カ国7大学で研修

実り多き成果を報告

歯学部では、国際的な視野を持ち、幅広く活躍できる歯科医師を育成するために、学業成績優秀者を対象に「短期海外研修」を実施しています。

海外研修の費用は全額大学が負担。学生にとっては、海外の医療の現場を知る絶好の機会といえます。

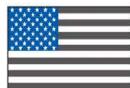
今夏、海外4カ国7大学での実り多き研修が終了し、研修成果が報告(提出)されました。



アメリカ
テキサス大学サンアントニオ校

5名

病院実習中の学生が、受け持った患者さんに対して、医療面接、治療計画の立案、治療をすべて一人で行っている堂々たる姿に大きな刺激を受けた。日本とアメリカ、それぞれ国は違っても、歯科医師という同じ目標をもち、同じ夢を追いかけ、互いに尊敬しあえる関係を築くことができた。



アメリカ
カリフォルニア大学ロサンゼルス校

5名



広大で綺麗なUCLAのキャンパス、とても優しいホストの方々に感動。『治療』と『予防』、2つのことを考えて診療に携わること、予防に対する患者教育が重要とのレクチャーを受ける。ホスト学生とのコミュニケーションを積極的に図り、研修終了時には、自分の英語力の上達を実感した。



アメリカ
アラバマ大学バーミングハム校

5名

病院見学では、アラバマ大学の学生一人ひとりが主体となり、診療に臨む姿に触れた。自らもホスト学生の診療の補助を体験し、器具や手順等については、本学の臨床実習での学びを活かすことができた。NASAの宇宙博物館やコカ・コーラミュージアムの見学で、アメリカの科学技術・文化を体感。



中国
北京大学口腔医学院

5名

森や湖などの自然に囲まれた北京大学のメインキャンパスは、ひとつの町のようなスケール。一日に5千人を超える患者さんが訪れるという附属病院の規模にも驚愕。研修中は、支台歯形成の実習にも参加した。ホスト学生や教員の細やかな気配りに感動。色鮮やかで美味しい北京料理に舌鼓。



中国
第四軍医大学

5名



規律正しい学生や教員の態度に、身も心も引き締まる緊張感。中国北西地域の医療拠点として、溢れんばかりの患者数が高い信頼性をうかがわせる。研修中は、歯冠修復、歯内治療、レーザー治療に関する講義を英語で受講。秦の始皇帝兵馬俑や歴史博物館の見学を通して、中国の歴史の奥深さを実感。



メキシコ
メキシコ州立自治大学

5名

ホストファミリー総出の暖かい出迎えで研修がスタート。研修中、実際の患者さんを相手に抜歯を経験。言葉が通じない中でも、無事に抜くことができ、貴重な機会となつた。メキシコ人の陽気で親切な人柄、民族衣装を装つてのダンスパーティー、テオティワカンや国立人類学博物館の視察。地球の裏側でまさに「異文化」に触れることができた。



フィンランド
トゥルク大学

2名

時間の流れがゆっくりと感じられるような豊かな自然と人の優しさに溢れた素敵な国、フィンランドでの生活を実体験。大学内の実習室では、歯冠修復の実習に参加。模型を使い、窓洞形成からレジン充填までを体験した。日本とは異なる器具の配置やデザイン、実習形式はともに新鮮で、視野を広げる良いチャンスとなった。



マーケティング指導者養成講座

穂積キャンパス6号館講義室において、岐阜県商業教育研究会と本学マーケティング研究所の共催により「マーケティング指導者養成講座」が開催され、商業高等学校の教諭と商品開発を学ぶ学生が受講しました。

本学マーケティング研究所長の中畠千弘教授（経営学部）が講師を務め、「商品開発のプロセス、市場調査の実践と商品開発メソッド、商品開発ワークショップ、販売促進の企画と実践」などをテーマに講座が進められました。

100年の経営

また、同養成講座では創業明治23年の、地元大垣市惣菜・佃煮メーカーである松下食品（株）代表取締役の松下卯藏氏を講師にお招きし、「オリジナルな惣菜開発と100年の経営」と題し、社長としての心構えや大手メーカーとの差別化のはかり方について熱く語っていただきました。



松下氏から社長としての心構えを学ぶ

大学広報を考える

大学の広報を考えようと、報道機関、広告代理店、出版社などの関係者約60名が参加し、「第7回大学広報を考える会」が開催されました。

三位一体の教育改革

「ここだけは押さえたい高大接続改革のポイント」と題した講演会では、リクルート進学総研所長でカレッジマネージメント編集長の小林浩氏から、高大接続改革のポイントとして「学力の3要素を身に付けさせるため、高等学校教育・大学入学者選抜・大学教育の三位一体となった教育改革が重要である」と語されました。



リクルート進学総研所長の小林浩氏が講演

講演会終了後は、会場を移し情報交換会が行われ、参加者それぞれの業種（立場）から見た昨今の大学広報や、メディアの果たす役割などについて活発に意見が交わされました。

FD教員研修会を開催

穂積キャンパス5号館会議室において、保健医療学部健康スポーツ科学科教員を対象としたFD教員研修会が開催されました。



健康スポーツ科学科FD教員研修会を開催

体育教員の資質

今回の研修会では、元鹿屋体育大学学長で本学客員教授の福永哲夫先生をお招きし「大学体育教員の資質」をテーマに研修が進められました。福永先生は「大学教員は研究者かつ教育者である。研究によって新しい事実の発見や方法の開発につながり、その過程や結果を学生に伝達し教育することとなる。このことから研究論文への取り組みは重要なものとなる」と受講者へ語りかけられました。

また、国内初となるスポーツ分野のコーチングに不可欠なパフォーマンス研究の科学的検証を行う最先端研究設備の鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究棟をご紹介いただきました。



福永先生が最先端の研究設備を紹介

学生選書ツアー

「学生選書ツアー2017」が三省堂書店名古屋本店で開催され、学生らは店内で実際に本を手に取り、真剣な表情で選書を行いました。

「学生選書ツアー」とは、学生が図書館に備え付けてほしい本を直接本屋さんに出向いて選ぶという企画。今回のツアーで選ばれた本は、図書館内の「学生選書コーナー」で展示されています。



「学生選書ツアー」の参加者



自転車競技

2種目でインカレチャンピオンに輝く

「文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権」が、長野県松本市美鈴湖競技場で開催され、今夏「西日本大学対抗選手権12連覇」を成し遂げた体育会自転車競技部が優秀な成績を収めました。



「ケイリン優勝」の小原選手

トラック競技9種目及びロード競技1種目の総合成績で争われる「全日本インカレ」には、基準タイムをクリアした全国42大学からのべ437名が出場。これまでスプリントとタンデムSPのチャンピオンに輝いている小原佑太選手(ビジネス企画4年:青森)が圧倒的な強さを発揮し、学生最後のインカレで3つ目のタイトルとなるケイリン学生チャンピオンに、また、永田吏玖選手(ビジネス企画2年:岐阜)が40kmポイントレースで他大学の強豪選手を寄せ付けない走りを見せ「初優勝」の栄冠を手にしました。会場内は両選手のみごとなレース展開に賞賛の拍手がしばらく鳴り止みませんでした。



「ポイントレース優勝」の永田選手(中央)

13年連続総合入賞をはたす

また、チームSP準優勝、スプリント5位入賞、1kmTTで5位・6位入賞、タンデムSP5位入賞をはたした自転車競技部は「男子総合4位入賞」の好成績を収め、創部3年目からの「13年連続総合入賞」をはたしました。

「2020年東京オリンピック」、「大学ナンバーワン」をめざし自転車競技部はこれからも走り続けます。

フェンシング

関西学生選手権でみごとな活躍

「第67回関西学生選手権」が豊橋市総合体育館(愛知)で開催され、体育会フェンシング部の小田康平選手(法学3年:千葉)、向井晴香選手(ビジネス企画3年:愛媛)、小林亜美選手(ビジネス企画4年:群馬)が、それぞれ男子エペ、女子サーブルと女子フルーレでみごと優勝をはたしました。

また、フェンシング部は男子フルーレ及びサーブル団体戦、女子サーブル団体戦でも優勝をはたし、大会を大いに盛り上げました。



女子フルーレ優勝に輝いた小林選手



男子エペ小田選手(左)と女子サーブル向井選手

剣道

東海大会で準V!

稻永スポーツセンター(愛知県名古屋市)で30大学が出場し開催された「第64回東海学生剣道優勝大会」において、体育会剣道部男子が宿敵中部大学に決勝戦で敗れるも堂々の準優勝の成績を収めました。

また、女子は名古屋市昭和スポーツセンター(名古屋市)で25大学が出場し開催された「第40回東海女子学生剣道優勝大会」に出場し、3位入賞の成績となりました。

ホッケー 第23回東海学生ホッケー選手権 優勝

相撲 第42回全国学生相撲個人体重別選手権大会
75kg未満級 3位入賞

卓球 東海学生卓球秋季リーグ 男女ともに準優勝

ライフル射撃 第38回中部学生ライフル射撃新人記録会 優勝

NEWS

秋季入学式を挙行

2017年度朝日大学秋季入学式が穂積キャンパス6号館大講義室にて厳粛に挙行されました。

今秋の入学者は、世界5カ国から総員32名（学部、大学院、留学生別科）。学長告辞を緊張した面持ちで受けた新入生の新たなページが、ここ朝日大学でスタートすることとなりました。

建学の精神遵守を誓う



大友克之学長へ入学宣誓を行う

式典では、大友克之学長から入学許可に引き続き、「建学の精神に基づき朝日大学での勉学・研究にそれぞれが邁進し、有意義な学生生活を送ってください」と告辞が述べられ、入学生代表からは、「建学の精神を遵守し、学業成就に向けて日々努力します」との力強い宣誓が行われました。

「こころ」を題材に 読書感想文コンクール

生誕150年を記念し「夏目漱石『こころ』を開いて」をテーマに開催された公開講座の一環として読書感想文コンクールが岐阜県内の高校生を対象に開催されました。



審査委員会顧問の吉田豊先生（元岐阜県教育長）から
総評が述べられる

米田真理審査委員長（経営学部教授）のもと厳正な審査が行われました。瑞穂市総合センターあじさいホールで開催された表彰式では、応募総数552作品から選ばれた最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞の受賞者に対し、大友克之学長から賞状と副賞が授与されました。

秋季学位記授与式

秋季学位記授与式ならびに修了式が穂積キャンパス6号館大講義室において華やかに挙行されました。

今秋の卒業生・修了生は、学部卒業生、大学院修了生、留学生別科修了生の総員39名（5カ国）。式典では大友克之学長から、学位記、修了証書が一人ひとりに手渡され、卒業生らは緊張しつつも充実感に満ち溢れた面持ちで学位記を受領していました。

新たな門出を祝福

教職員・父母等に拍手で送り出された卒業生たちは皆、朝日大学での学生生活の日々を振り返りながらも、これから始まる新生活への希望に満ちた表情でした。また、式典終了後には、卒業記念パーティーが6号館ホールで開かれ、華やかなパーティー会場では、卒業生たちが新たな門出を互いに満面の笑顔で祝福し合っていたのが印象的でした。



卒業記念パーティーで新たな門出を祝福

患者さん癒す演奏や声楽

村上記念病院（岐阜市橋本町）で、患者さんを対象にした院内コンサートが開催され、入院患者さんはクラシック音楽やミュージカル音楽の演奏や歌唱に聴き入っていました。

今回のコンサートには、岐阜市を中心に活動する声楽ユニット「フローラ」の3名が出演。歌、ピアノの合唱で「オーシャンゼリゼ」、「夏の思い出」など11曲を披露いただき、コンサートの最後には入院患者さんや家族、病院スタッフら約170名が一緒に「ふるさと」を合唱し、楽しそうな歌声が院内に響きわたりました。

このコンサートは、毎年夏と冬に行われており、入院生活でふさぎがちになりやすい患者さんのこころを癒しています。



入院患者さんの心を癒すコンサート